

令和6年度

「地域力を育てる—地域連携によりバーチャルコミュニケーション力を育てる—」

【姫路大学 大西研究室研究グループ（連携課：こども支援課・介護保険課・地域包括支援課・地域福祉課・デジタル戦略室）】

研究の目的（背景・課題・意義）

コロナ禍を経て社会ではバーチャルコミュニケーション力の必要性が高まっている。メタバースを介し大学生のマンパワーを活用した地域連携活動を行うことで子ども～高齢者における「我が事・丸ごと」地域共生社会実現を目指すため有用な方策を検証する。

研究内容・主な実施計画

VRを利用した地域連携交流を行うことで、地域と大学、大学生のマンパワーが協働で「我が事・丸ごと」地域共生社会実現を目指すことができる方策をとしてメタバースを利用した研究活動を行って、その成果を検証する。

- ①大学、学生が地位と連携するにはその仕組みが必要、システム構築を目指す。
- ②メタバースを利用したコミュニケーション活動を行うことで、対面コミュニケーションに加え、バーチャルコミュニケーション力の獲得につながり、地域・世代を超えた交流の実現が目指せる。

VR空間でできること

- ・遊び、ゲーム
- ・スポーツ
- ・会話
- ・趣味活動等

○児童館と協力して行う活動

コミュニティ・スクール実施に伴う地域学校協働活動として実施する活動モデル構築を目指す。地域学校協働活動とまではいかないまでも、地域のお子さんと学生ボランティア、そして、児童館や地域包括支援センターと連携して、VRを利用したコミュニケーションを行う。不登校状態の方にもご参加いただけるよう実施する。

○地域包括支援センター、さぼすてと協力して行う活動

ニート・引きこもり状態にある方々の社会活動復帰への活動モデル構築を目指す。また、高齢者の方、施設入居者の方々のコミュニケーション、ヘルスプロモーション向上を目指す。

活動準備

- ・VR機器、環境を準備する。
- ・VR空間での活動の説明等行う。
- ・学生ボランティアのサポートで利用者にVR空間で一緒に活動をする。
- ・実施場所として、児童館、大学構内を想定する。
- ・利用時間によっては、自宅からのアクセスもあると想定する。
- ・第三の居場所、サードプレイスの構築にもつなげる。